【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】平成18年1月5日(2006.1.5)

【公表番号】特表2002-523762(P2002-523762A)
【公表日】平成14年7月30日(2002.7.30)
【出願番号】特願2000-567897(P2000-567897)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｂ　5/02　(2006.01)
Ｇ０１Ｂ　5/30　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｂ　5/02　Ｚ
Ｇ０１Ｂ　5/30

【手続補正書】
【提出日】平成17年7月27日(2005.7.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】　所定の長さと２つのスケール（１２，１４）とを有し、第１のスケール（１２）は、第１の部材に取り付けられかつ第１のピッチ長（P_1）だけ互いに間隔をおいて設けられた一群の透明なマーク（１８）を有し、第２のスケール（１４）は、ベルト（２８）の表面に取り付けられかつ第２のピッチ長（P_2）だけ互いに間隔をおいて設けられた一群のマーク（２２）を有し、該第１、第２のピッチ長（P_1，P_2）は互いに異なっている、ベルトの相対的な伸びを測定する装置において、
前記第２のスケール（１４）の前記マーク（２２）は目視できる色彩で形成され、
前記第１のスケールが前記第２のスケールの上に重ね合わされているとき、前記ベルト（２８）の前記第１または第２の各直線ピッチ長（P_1またはP_2）における伸びに対して前記装置（１０）の長手方向に移動する対比領域（２４）が形成されるように、該第１のピッチ長と該第２のピッチ長とが互いに異なっていることを特徴とする装置。
【請求項２】
前記対比領域（２４）は、初期状態では、重ね合わされた前記スケール（１２，１４）の限られた部分だけが目視でき、目視できる限られた該対比領域（２４）は、前記ベルト（２８）の前記第１または第２の各ピッチ長（P_1またはP_2）における伸びに対して前記装置（１０）の全長にわたって移動する、請求項１に記載の装置。
【請求項３】
前記対比領域（２４）は、初期状態では、重ね合わされた前記スケール（１２，１４）の限られた部分だけが目視でき、目視できる該対比領域（２４）は前記ベルト（２８）が伸びるにしたがい増加していく、請求項１に記載の装置。